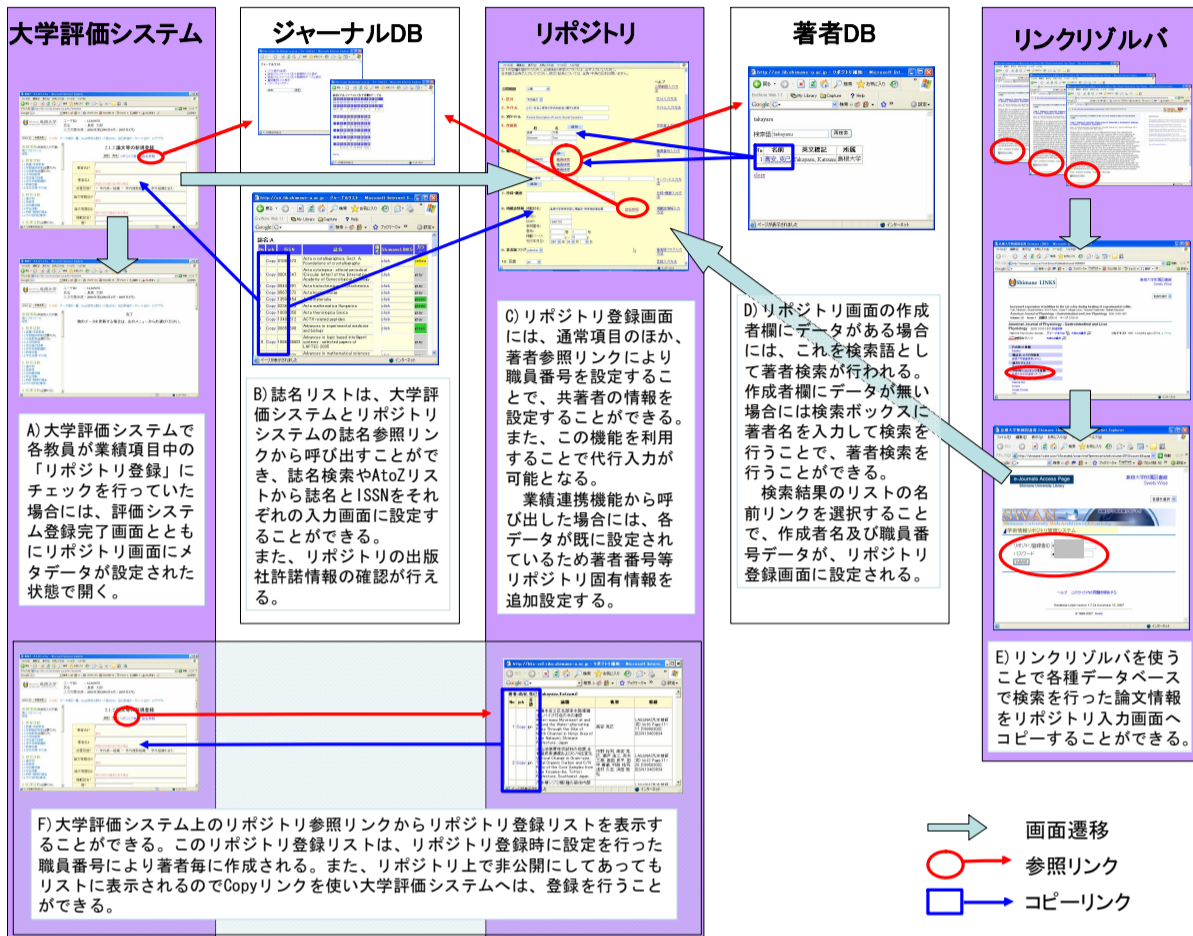


1) 大学評価システム / リポジトリシステム連携

島根大学の大学評価システムとリポジトリシステムの連携では、両システムで共通の研究業績データ等をリアルタイムで相互利用でき、公開前は登録者が直にデータ修正が可能な機能を持たせた。また、このときリポジトリによる公開意志を登録者が設定することで、紙面による公開意志確認を不用とした。データ入力の起点は、大学評価システム、リポジトリシステムどちらからでもよく、リンクリゾルバーによる書誌流用機能や誌名、著者典拠ツールの提供など、セルフアーカイビング推進のための登録環境を整備した。



2) 公開後の運用状況と今後の課題

現状

2007年4月に3,750件の紀要論文の公開を行った。公開論文の推移は、Fig. 1のようになっている。2007年10月時点での公開論文数は、4,140件となった。

7ヶ月で390件追加されたことになるが、335件は図書館で一括登録を行っている紀要論文の公開で、研究者投稿による公開は、55件である。

しかし、準備中のデータは、965件の投稿となっており、大学評価システムと連携した研究者によるリポジトリへの投稿件数は、合計1,120件の投稿があったことになる。

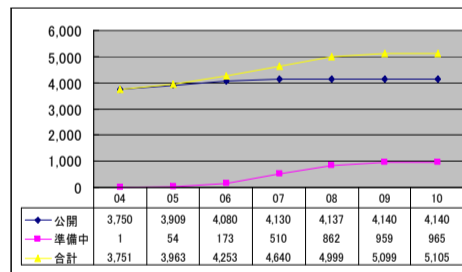


Fig. 1. 投稿論文の推移 (2007年4月以降)

調査結果

Fig 2, 3, 4は、研究者によるリポジトリへの投稿された資料種別と投稿数の月別の推移を表しており、左から「公開中」「準備中」「削除」の件数を示すグラフとなっている。

「準備中」のグラフで顕著に表れるが7月に投稿のピークがある。これは、大学評価システムへの業績登録の締め切りが9月に設定されているため大学評価システム連携を使った投稿が行われたことを示している。

削除グラフは、重複登録や不正データのため削除されたデータを表しているが、投稿の2割位発生している。

投稿業績の種類は、学術論文と会議資料が殆どを占める結果となっている。

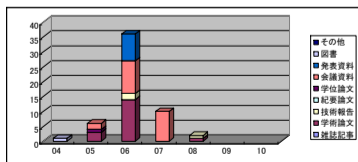


Fig. 2. 公開件数

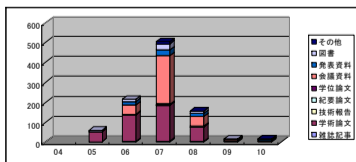


Fig. 3. 準備中件数

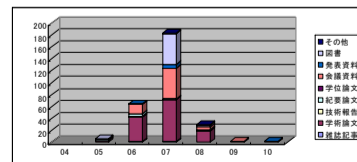


Fig. 4. 削除件数

結論

準備中のデータは、登録者が非公開意志を表示されている論文や出版者許諾が得られていないものが多数含まれている。

非公開意志を表示している論文は、登録者にリポジトリの趣旨をより理解してもらうための啓蒙活動が必要と思われる。また、出版者許諾が得られていないものについても出版者への理解を求めていく必要がある。

リポジトリの公開数はまだ少ない状況であるが、研究者によるリポジトリシステムへの投稿が7ヶ月で1,120件行われたことからすると、このメタデータをもとに情報公開への理解を求めつつ、公開可能な業績ファイルを容易な操作でセルフアーカイブを行うことが可能となる。